

最上川中流の減災に係る取組方針（新旧対比及び課題）

| R3～7の取組方針 | | R2年7月洪水等を踏まえた課題 | | H28～R2の取組方針 | |
|--------------------------------------|---|-----------------|-----|---|--|
| <伝える> | | | | | |
| ①気象・水文情報・避難に必要なリスク情報等の共有方法の整備 | | | | | |
| A | メディアと連携した防災情報の普及 行政機関によるSNS公式アカウントでの情報発信 避難体制強化のための水災害リスク情報の充実（複合ハザードマップ、3次元ハザードマップの作成） | 山形県・気象台・東北地整 | 課題A | 災害時におけるマスコミやネットメディアからの正確な情報発信を行うとともに気象情報と河川情報の連携を図る必要がある | |
| B | 避難体制強化のための水災害リスク情報の充実（複合ハザードマップ、3次元ハザードマップの作成） | 東北地整 | 課題B | より住民に分かりやすいリスク情報を提供するための工夫が必要 | |
| C | 災害リスクを考慮した立地的成集計画作成及び居住誘導 | 市町村 | 課題C | 水災害リスク軽減のため、土地開発規制や低リスク地域への誘導を図るなどの検討が必要 | |
| ②住民が自ら避難行動を行うための防災教育等の啓発活動 | | | | | |
| DK | 講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進 継続的な防災知識の普及及び防災教育推進の実施 | 山形県・気象台・東北地整 | 課題D | 水災害、土砂災害に関する防災意識の低下、および住民一人ひとりの避難に必要な情報、判断、行動が把握出来ていない | |
| <促す> | | | | | |
| ①住民が迅速・確実に避難を行うために構成機関の連携を強化 | | | | | |
| E | 令和2年7月出水の課題を受けたタイムラインの改善 流域自治体との洪水対応演習 | 山形県・気象台・東北地整 | 課題E | 令和2年7月豪雨の対応を踏まえて、策定したタイムラインに基づく災害対応の検証を行い、改善・充実させていく必要がある | |
| F | 広域連携による避難体制の強化 | 山形県・最上広域 | 課題F | 近年の災害の傾向から、個々の市町村単位では避難対応が難しい傾向にある | |
| ②避難のきっかけとなる情報提供・伝達手法の改善 | | | | | |
| GH | 災害時においても確実に情報提供が行えるシステムの構築 ICTを活用した河川情報の充実 | 東北地整 | 課題G | アクセスの集中により情報が閲覧できない事態や同時多発的な河川水位の上昇により洪水予報等の情報が発出出来なくなることが懸念される | |
| | | | 課題H | 情報が途絶え、堤防決壊などの重大情報が共有されなくなることが懸念される | |
| ③支援が必要な要配慮者が迅速・確実に避難できる体制の構築 | | | | | |
| I | 要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進 | 市町村 | 課題I | 水防法、土砂災害防止法の改正（H29.6）を踏まえた避難確保計画の作成及び訓練の実施を推進していく必要がある | |
| <動く> | | | | | |
| ①住民が自ら考え行動するための取組 | | | | | |
| J | まるごとまちごとハザードマップの推進 浸水深ライン標識設置 | 市町村・東北地整 | 課題J | 「まるごとまちごとハザードマップ」の追加整備を行う必要がある | |
| KL | 講習会等によるマイ・タイムラインの普及促進 | 市町村 | 課題K | 自ら行動することへのツールとしてマイ・タイムラインの普及を進める必要がある | |
| | | | 課題L | 住民の防災意識の向上を図るとともに、災害時の避難に必要な情報、判断、行動を把握する必要がある | |
| A | 洪水予測の精度向上、上下流水位相関等による簡易予測、XREIN配信エリアの拡大 | | A | 洪水予測の精度向上、上下流水位相関等による簡易予測、XREIN配信エリアの拡大 | |
| B | 気象情報発信時の「危険度の色分け」や「警報級の」等の改善（水害時の情報入手のし易さをサポート） 想定最大規模の浸水想定区域の作成 | | B | 気象情報発信時の「危険度の色分け」や「警報級の」等の改善（水害時の情報入手のし易さをサポート） 想定最大規模の浸水想定区域の作成 | |
| C | 災害規模に応じた垂直避難箇所や二次避難方法を明確化したハザードマップの更新 | | C | 災害規模に応じた垂直避難箇所や二次避難方法を明確化したハザードマップの更新 | |
| D | 構成機関の出前講座や過去の災害体験者からの伝承による身近な防災教育 巡回パネル展による防災活動 小学校における防災教育 体験型防災教育 | | D | 構成機関の出前講座や過去の災害体験者からの伝承による身近な防災教育 巡回パネル展による防災活動 小学校における防災教育 体験型防災教育 | |
| E | タイムラインの精度向上（地域避難特性を踏まえた避難時間の確認） 県管理河川では、洪水予報河川のタイムライン作成、水位周知河川のタイムラインの検討を推進 タイムラインに基づく市町村避難行動マニュアル（案）の整備 | | F | タイムラインの精度向上（地域避難特性を踏まえた避難時間の確認） 県管理河川では、洪水予報河川のタイムライン作成、水位周知河川のタイムラインの検討を推進 タイムラインに基づく市町村避難行動マニュアル（案）の整備 | |
| G | タイムラインに基づく学習型訓練の実施 | | G | タイムラインに基づく学習型訓練の実施 | |
| H | 危険水位等設定河川以外の河川について避難勧告等の発令基準・区域の設定検討 | | H | 危険水位等設定河川以外の河川について避難勧告等の発令基準・区域の設定検討 | |
| I | ホットライン、エリアメール、防災無線個別受信機等を活用したプッシュ型の情報提供 緊急速報メールを活用したプッシュ型の洪水予報の配信 確実な避難行動に向けた簡易アラート装置や簡易水位計等の整備 | | I | ホットライン、エリアメール、防災無線個別受信機等を活用したプッシュ型の情報提供 緊急速報メールを活用したプッシュ型の洪水予報の配信 確実な避難行動に向けた簡易アラート装置や簡易水位計等の整備 | |
| J | 消防団、自主防災組織のリーダーを対象とした研修会等の開催 福祉施設等の施設責任者との連携による要配慮者の避難体制の構築 旅館や商業施設等との連携による観光客の避難体制の構築 避難確保計画の作成及び避難訓練に対する支援策の検討 | | J | 消防団、自主防災組織のリーダーを対象とした研修会等の開催 福祉施設等の施設責任者との連携による要配慮者の避難体制の構築 旅館や商業施設等との連携による観光客の避難体制の構築 避難確保計画の作成及び避難訓練に対する支援策の検討 | |
| K | 消防団、自主防災組織を主体とした様々な危険を想定した避難誘導、水防活動訓練の実施 | | K | 消防団、自主防災組織を主体とした様々な危険を想定した避難誘導、水防活動訓練の実施 | |
| L | 住民、関係機関が連携した、より実践的な避難訓練を実施 被災の可能性が高い箇所（重要水防箇所）の合同巡視を実施 まるごとまちごとハザードマップの追加整備、設置済箇所の効率・実践改定 | | L | 住民、関係機関が連携した、より実践的な避難訓練を実施 被災の可能性が高い箇所（重要水防箇所）の合同巡視を実施 まるごとまちごとハザードマップの追加整備、設置済箇所の効率・実践改定 | |

②行政機関等が住民の暮らしと生命を守るために動く取組

| | | |
|---|--|----------|
| M | 排水作業準備計画作成の推進（対象地区の追加、計画に基づいた排水作業を行うための体制を構築） 排水ポンプの設置・更新、移動可能排水ポンプの配備・充実 | 市町村・東北地整 |
|---|--|----------|

| | |
|-----|---|
| 課題M | 排水作業準備計画の対象区域の追加、および計画に基づいた排水作業を行うための体制を構築する必要がある |
|-----|---|

※ハード対策（Q）については、最上川中流・上流緊急治水対策プロジェクト（最上川流域治水協議会）で取り組んでいくこととし、今回の取組方針からは除外しました。

| | |
|---|--|
| M | 樋門・樋管操作（閉）時の回転灯装置の整備 排水訓練の実施 |
| N | 大規模災害時のTEC-FORCE、リエゾン派遣、自衛隊、医療機関、福祉基幹等による連携・支援体制の構築 災害復旧の支援体制の強化及び災害情報の共有 災害に対して、十分な量と質の水防資機材を確保 広域避難に向けた隣接市町村間の具体的な協定構築 |
| O | 災害拠点病院等が浸水し、機能が低下・停止する事態を想定した対策を実施 |
| P | 孤立者、垂直避難時の急病人の搬送のためのヘリポートとして活用可能な箇所の検討 |
| Q | 洪水氾濫を未然に防ぐ対策 <直轄管理区間> ・堤防整備、河道掘削・漏水対策等 <県管理区間> ・最上小国川流水型ダム建設 ・堤防整備、河道掘削・漏水対策等 危機管理型ハード対策 <直轄管理区間> ・堤防天端の保護、堤防裏法尻の補強等 |

「第10回 最上川中流大規模氾濫時の減災対策協議会 幹事会」

令和3年7月8日(木)開催

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてWEB会議にて開催 (場所：国土交通省 新庄河川事務所 2F大会議室)

『伝える・促す・動く』を目標とした減災対策への取組みの継続・実施を確認

概要

- ① 令和2年度の取組と令和3年度の取組予定 (情報提供)
 - ・ 国 (各参画機関)、山形地方気象台、山形県
- ② 令和3年度 最上川中流の減災に係る取組方針(案)について
 - ・ 最上川中流の減災に係る取組方針 (R3～7年度)

(WEB会議での開催状況)



議事内容

- ① 令和2年度の取組と令和3年度の取組予定 (情報提供)
 - <国 (各参画機関)>
 - 大規模氾濫時に備えた3つの目標『伝える・促す・動く』の取組状況及び今後の取組予定 (各参画機関) について説明・確認を行った。
 - <山形地方気象台>
 - 顕著な大雨に関する情報、記録的短時間大雨情報の改善等について説明・確認を行った。
 - <山形県>
 - 県管理河川におけるホットラインの実施状況、可搬式排水ポンプの操作訓練、簡易型河川監視カメラの設置等について説明・確認を行った。
 - <新庄河川事務所>
 - 国管理河川における指定河川洪水予報の予測時間延長、「防炎用語ウェブサイト」の開設等について説明・確認を行った。
 - ② 最上川中流の減災に係る取組方針(案)について
 - R3年度から7年度までの新たな取組方針(案) について提案、意見交換を行った。
 - <幹事会での意見等>
 - ・ 簡易カメラの夜間視認をもっと良く出来ないか。
 - ・ まるごとまちごとHMの浸水プレートを電柱に設置する際の占用手続きを簡単にできないか。
 - ・ 大石田町で6月にマイタイムラインの全戸配布を行った。今後、自主防災組織等の支援をしていく。
 - ・ 舟形町では要配慮者施設の避難確保計画を作成済み。(真室川町、最上町も作成済み)

幹事会構成員

| | |
|---------------------------------------|----------------|
| 新庄市 環境課長 (兼) 地域防災監 | 尾花沢市 総務課危機管理室長 |
| 大石田町 総務課長 | 金山町 町民税務課長 |
| 最上町 総務課長 | 舟形町 住民税務課長 |
| 真室川町 総務課長 | 大蔵村 総務課危機管理室長 |
| 鮭川村 住民税務課長 | 戸沢村 総務課危機管理室長 |
| 最上広域市町村圏事務組合 事務局長 (兼) 業務課長 | |
| 山形県 防災くらし安心部 防災危機管理課 課長補佐 | |
| 農林水産部 農村整備課 農村防災・災害対策主幹 | |
| 国土整備部 河川課 副主幹 (兼) 課長補佐 | |
| 砂防・災害対策課 課長補佐 | |
| 村山総合支庁 総務企画部 総務課防災安全室長 | |
| 村山総合支庁 建設部 北村山河川砂防課 副主幹 (兼) 北村山河川砂防課長 | |
| 最上総合支庁 総務企画部 総務課長 | |
| 最上総合支庁 建設部 河川砂防課長 | |
| | 高坂ダム管理課長 |
| 東北農政局 西奥羽土地改良調査管理事務所 最上川支所長 | |
| 村山北部支所長 | |
| 気象庁 山形地方気象台 防災管理官 | |
| 東北地方整備局 新庄河川事務所 副所長 | |

最上川中流の減災に係る取組方針（案）に対する意見等について

1. P-2【伝える】【促す】【動く】の各取組項目が、P-11の【目標達成に向けた3本の柱】の各取組項目と不整合
⇒不整合を修正
2. P-12・15・16・17の取組機関の「山形県」について、R3～7年度の取組予定がないことから削除
⇒修正
3. P-17の目標時期が「R2年度からR8年度」になっている
⇒R3年度からR7年度に修正

わらわら逃げっぺ

家の避難計画

「マイ・タイムライン」

参考

山形県大石田町

作成ポイント

▼避難に時間を要する人は避難を始めましょう ▼遅くともこの時には全員避難を始めましょう

防災気象情報



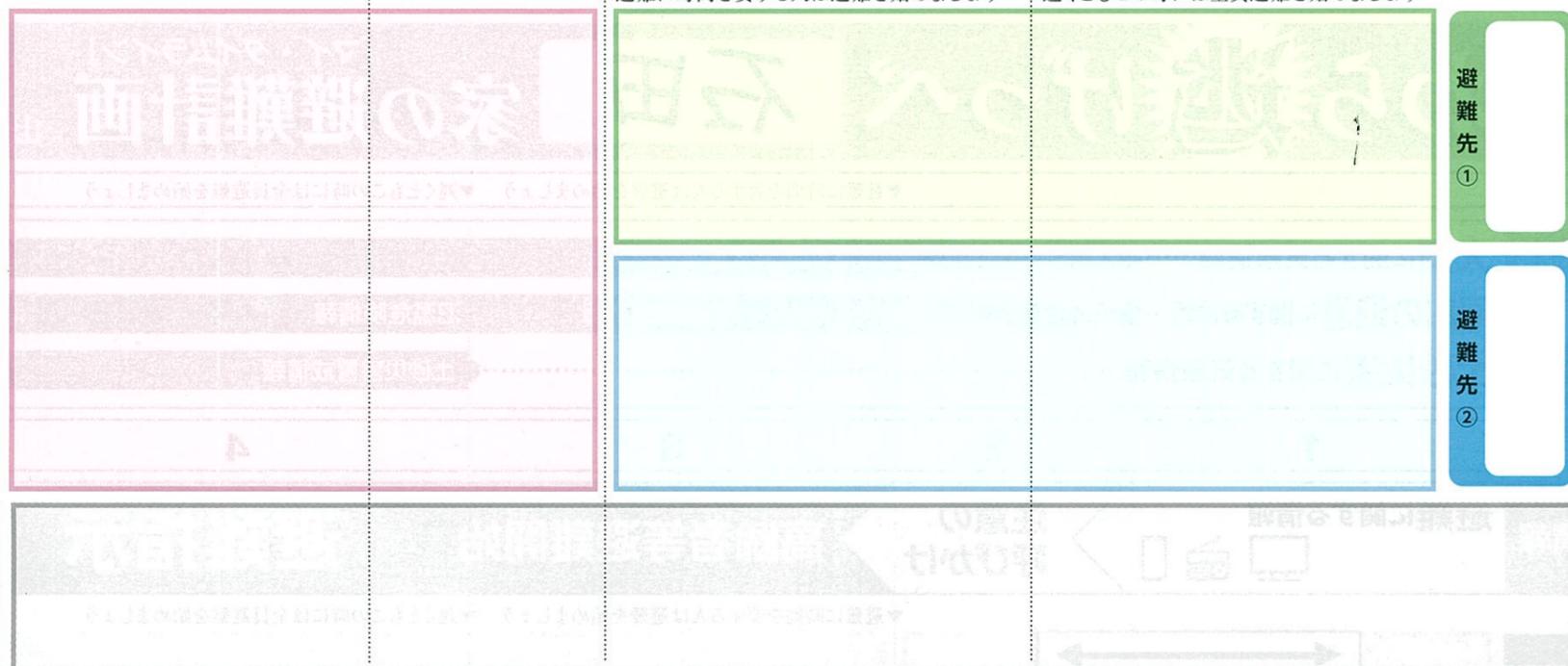
警戒レベル

1 2 3 4 5

避難情報



私と家族
地域
行動



災害発生

自宅周辺の状況

(防災マップで確認)

浸水の深さ: _____ ~ _____ m

土砂災害のおそれあり

土石流 地すべり 急傾斜

避難する場所

①親戚・知人宅: _____ 宅 電話番号: _____ 携帯: _____

避難の方法: 自動車 徒歩 _____ 避難にかかる時間: _____ 分

②指定避難所: _____

避難の方法: 自動車 徒歩 _____ 避難にかかる時間: _____ 分

非常時持出品

現金 健康保険証 貴重品 マスク

アルコール消毒液 体温計 食料 飲料水

毛布 敷物(マット類) 着替え 常備薬

スリッパ ラジオ モバイルバッテリー

気象・河川等の情報

大石田町公式ホームページ

山形県河川・砂防情報システム

山形地方気象台

防災放送確認ダイヤル: 0237-48-8444

キ-リ-ト-リ-セ-ン

| | | | | | |
|--|------|--|------|--|------|
| | ()分 | | ()分 | | ()分 |
| | ()分 | | ()分 | | ()分 |
| | ()分 | | ()分 | | ()分 |
| | ()分 | | ()分 | | ()分 |
| | ()分 | | ()分 | | ()分 |

← 全ての避難準備にかかる時間 ()分

→ 避難開始 ()分
避難にかかる時間 ()分

→ 避難開始 ()分
避難にかかる時間 ()分

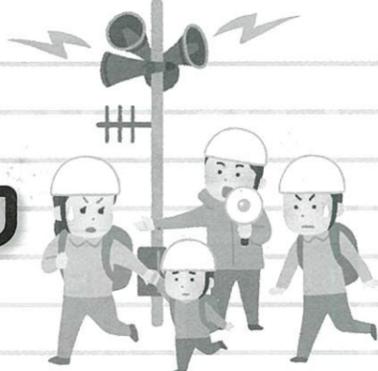
→ 避難開始 ()分
避難にかかる時間 ()分

| | | |
|----------|----------|----------|
| 避難完了 () | 避難完了 () | 避難完了 () |
| 避難完了 () | 避難完了 () | 避難完了 () |
| 避難完了 () | 避難完了 () | 避難完了 () |

家族でつくろう!

マイ・タイムライン

“わが家の避難行動計画”



マイ・タイムラインとは

マイ・タイムラインは、大雨によって河川の水位が上昇するなど、災害の発生に備えて「いつ・どこに・どのように」避難するのかをあらかじめ決めておく避難行動計画です。一人ひとりの避難行動を事前に家族で話し合い、どのタイミングで何をするのかを決めておくことで、いざというときにあわてず、そして迷うことなく行動することができます。各地で毎年のように大規模な自然災害が発生し、去年は最上川が氾らんして多くの町民が避難しましたが、重要なのは「自分の命は自分で守る」、「家族の命は家族で守る」という意識を持つことです。いつ起こるかわからない災害に備え、家族のマイ・タイムラインを作成してみましょう。

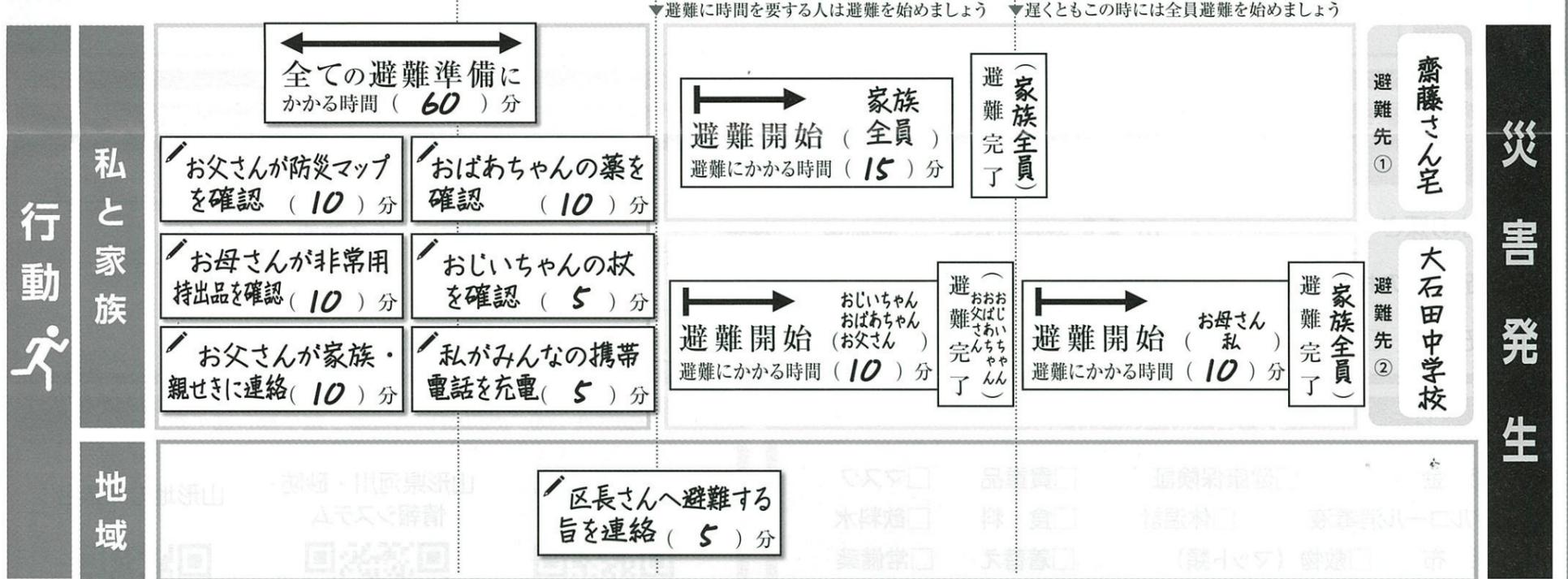
記入例

わらわら逃げっべ 石田 家の避難計画 山形県大石田町

作成ポイント ▼避難に時間を要する人は避難を始めましょう ▼遅くともこの時には全員避難を始めましょう

| | | | | |
|--------|-------------------------|---------|--------|--------|
| 防災気象情報 | 大雨に関する気象情報……●大雨・洪水注意報 | 大雨・洪水警報 | | |
| | 河川の氾濫に関する情報……●氾濫注意情報 | 氾濫警戒情報 | 氾濫危険情報 | 氾濫発生情報 |
| | 土砂災害に関する気象情報……●土砂災害警戒情報 | | | |

| | | | | | |
|-------|---|---|---|---|---|
| 警戒レベル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------|---|---|---|---|---|



自宅周辺の状況 (防災マップで確認)

浸水の深さ: 1.0 ~ 2.0 m

土砂災害のおそれあり

土石流 地すべり 急傾斜

避難する場所

①親戚・知人宅: 齋藤さん宅 電話番号: 35-2111 携帯: 090-0000-0000

避難の方法: 自動車 徒歩 避難にかかる時間: 15 分

②指定避難所: _____

避難の方法: 自動車 徒歩 避難にかかる時間: 10 分

非常時持出品

現金 健康保険証 貴重品 マスク

アルコール消毒液 体温計 食料 飲料水

毛布 敷物 (マット類) 着替え 常備薬

スリッパ ラジオ モバイルバッテリー 寝袋

ウェットティッシュ ティッシュペーパー

気象・河川等の情報

大石田町公式ホームページ

山形県河川・砂防情報システム

山形地方気象台

防災放送確認ダイヤル: 0237-48-8444